

学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	【目指す学校像】	○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心して、信頼し、躍進できる学校
		【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、自ら考える生徒 ○他を思いやり、支え合う生徒 ○責任をもち、やりぬく生徒
		【目指す教師像】	○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	問題解決型福島中方式4ステップ授業から深まりのある指導を実践する。	毎時間の授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」授業を着実に実践する。	4「深まりにつながる4ステップ授業を行った」 3「深める」ための指導の工夫を行った」 2「広げる」ための指導の工夫を行った」 1「個と集団を意識した授業を行った」	3	4「授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上」 3「授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が70%以上」 2「授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%以上」 1「授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%未満」	3	* 深めるための話し合い活動はスムーズで理解しやすいようだが、どれだけ深まっているかは疑問が残る。 * 振り返りを書かせると理解できたと書く生徒が増えている。	話し合い活動で理解の深まりを感じるのと同時に、振り返りが生徒自身の理解も深めている。	A	書かせることは深めるために重要で継続する。話し合いは質を高め、真の深まりにつなげる。
		考えを深めるための読解力と表現力を身に付けさせる。	様々な場面で読む、書く、聞くを重視し、考える時間を確保し表現する場面を増やす。	4「深く読み、表現する授業を毎時間展開した」 3「深く読み、表現する授業を7割以上行った」 2「深く読み、表現する授業を5割程度行った」 1「深い読みや表現する指導が不十分だった」	3	4「考える力・発表する力が付いた生徒が80%以上」 3「考える力・発表する力が付いた生徒が60%以上」 2「考える力・発表する力が付いた生徒が40%以上」 1「考える力・発表する力が付いた生徒が40%未満」	3	* 発表の場面を増やしたことで、自分の考えをまとめることができるようになった。 * よく考え、発表する生徒が増えた。 * 班学習、班発表では、自ら考え質問に答え、知識を深めている。	考えをまとめて発表することで、自分の理解を確認できている。	B	今後も様々な場面で役立つので、発表の場面を今後も増やしていく。
		主体的な学習習慣を基に、主体的に学びに向かう態度を養う。	明確なねらいと内容を深める振り返り、授業や家庭学習を主体的に取り組む。	4「毎時間の振り返りを次時に生かす指導を行った」 3「毎時間のねらいと既習事項を関連付けた振り返りを行った」 2「毎時間ねらいを示し、振り返りを行った」 1「授業のねらいを振り返りを時々行った」	3	4「主体的な学習習慣が定着した生徒が90%以上」 3「主体的な学習習慣が定着した生徒が70%以上」 2「主体的な学習習慣が定着した生徒が50%以上」 1「主体的な学習習慣が定着した生徒が50%未満」	3	* 3年生は自主的に学習する生徒が増えた。 * 家庭での自由勉強を通して、自主的に学習する習慣が身に付いている。 * 学習の習慣化は、学校全体でさらに取り組む必要がある。	学年が進むほど定着しているため、今後も継続してほしい。	B	学校としての組織的な取組を進める。家庭学習の質を高める指導を行う。
豊かな心	自己有用感を高めることで自尊感情を育み、お互いを大切に尊重できる人間関係を構築する。	考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	発問と話し合いの工夫で22の内容項目を自分自身との関わりの中で深める。	4「生徒が考え、気付きのある発問を工夫した」 3「教材解釈と教材の工夫を十分にを行った」 2「計画通りに22の内容項目を全て扱った」 1「自分で教材理解をして年間35時間行った」	3	4「自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が80%以上」 3「自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が60%以上」 2「自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が40%以上」 1「自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が40%未満」	3	* 他者の意見を聞く場面を多く設定したことで、生徒が考えを深められた。 * 自分や展開の工夫で、さらに深めることができるのが難しいことが多い。	他の生徒の考えを聞くことで、他者を深く理解し、自己の成長につながっていると思う。他者の表情を見て考えを深めていると感じる。	B	教師が教材理解を深めることで、広がりある発問につながる。生徒の考えを十分に引き出す発問を研究する。
		一人一人を尊重し、努力を認めて褒めることで自尊感情を育む。	傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛する生徒指導を実践する。	4「傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛を実践した」 3「傾聴、共感、認定から助言につなげた」 2「傾聴、共感をし、認める努力をした」 1「傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする」	3	4「教員は良さを認め伸ばしてくれと感じる生徒が90%以上」 3「教員は良さを認め伸ばしてくれと感じる生徒が80%以上」 2「教員は良さを認め伸ばしてくれと感じる生徒が50%以上」 1「教員は良さを認め伸ばしてくれと感じる生徒が50%未満」	3	* 各教員が意識して取り組んでいる。 * 習慣になっていて、生徒との信頼関係も深まっているように思っている。 * 生徒の変化に敏感になって、声かけすることが増えた。 * 学校内外での挨拶は定着していない。	教師が生徒の声に耳を傾け、認め、褒めてくれることで生徒に安心感が生まれている。	B	生徒の自己有用感を高めるために、傾聴、共感を基本として褒めて自主性を育てる指導を続ける。
		挨拶や返事がお互いに気持ちよく過ごせる人間関係を築く。	自らすすんで挨拶や返事をする習慣を付けさせる。	4「学校内外では教員自ら挨拶や声かけを行った」 3「学校生活での挨拶・返事の指導を徹底した」 2「授業中の挨拶・返事の指導を徹底した」 1「挨拶・返事の指導を時々行った」	4	4「学校内外で、すすんで挨拶できる生徒が80%以上」 3「学校内で、挨拶・返事ができる生徒が80%以上」 2「学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%以上」 1「学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%未満」	3	* こちから挨拶すれば返ってくるが、生徒からの挨拶はまだ定着していない。 * 挨拶によりコミュニケーションが深まる。	マスクをしていると消極的、内向的になりがちである。今まで以上に大人から積極的に挨拶をすることが大切。	B	今後も挨拶の大切さを訴え続け、教師から積極的に挨拶をすることが大切。
健やかな体	自らの生活を健康的で健全にするために、体力向上を図り、規則正しい生活を送る。	1年間健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。	体育活動で補強運動や主運動を工夫することで、主体的に運動する習慣を身に付ける。	4「一つ一つの運動の効果や取組方法を徹底指導した」 3「体力向上のために個に応じた方法を指導した」 2「体力向上の意義と取組方法を指導した」 1「体力向上のための指導した」	3	4「運動を主体的に取り組む生徒が90%以上」 3「運動を主体的に取り組む生徒が70%以上」 2「運動を主体的に取り組む生徒が50%以上」 1「運動を主体的に取り組む生徒が50%未満」	3	* 生活習慣や食事の大切さを生徒に伝えている。 * 昼休み以外で遊ぶ姿が好ましい。 * コロナ禍で運動能力や主体性が低くなっている。	コロナ禍で難しい状況ではあるが、福中ミニ体操を作ってストレッチを兼ねて身体を動かす習慣を付けてほしい。	C	運動の大切さを伝えることで、学校外でも主体的に運動に取り組む姿勢を育んでいく。
		食事や睡眠を大事にし、自らの健康増進に努める生徒を育てる。	給食を残さず食べる指導を行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。	4「学級で食の大切さと残さず食べる指導を徹底した」 3「学級で食の大切さと残さず食べる指導をした」 2「学級で残さず食べる指導に取り組んだ」 1「学級で食育指導を定期的に行った」	3	4「全校で1か月の平均残菜率が5%以下」 3「全校で1か月の平均残菜率が8%以下」 2「全校で1か月の平均残菜率が10%以下」 1「全校で1か月の平均残菜率が10%前後」	3	* 早寝・早起き・朝ご飯をお便りで周知した。 * 食べ残さない習慣は家庭の協力が必要。 * 残菜を毎日おにごぎの個数で表し分かりやすかった。	規則正しい生活や食習慣は宛委の協力が必要で、食の大切さを今後も指導ください。	B	家庭への協力を求めるとともに、生活習慣について学級や保健体育の授業で指導をしていく。
		SNSの活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	SNS学校ルール及び家庭ルールの定着のために、定着度調査を行い各自の意識を高める。	4「SNSルールの徹底を家庭に指導した」 3「SNSルールを学級で指導・徹底した」 2「SNS家庭ルールの作成を学級で指導した」 1「SNS学校ルールを学級で指導した」	3	4「SNSルールが定着した生徒が80%以上」 3「SNSルールが定着した生徒が50%以上」 2「SNSルールを意識している生徒が50%以上」 1「SNSルールを意識している生徒が50%未満」	2	* SNSルールを指導する時間がなかなか取れない。(日常的な指導はある) * ルールを意識していない生徒がいて気になる。	SNSは便利であるが、危険性を伴うので、引き続き指導をしてほしい。家庭の責任能力を促す発信も大事。	C	学校と家庭でのSNSルールの徹底を強化することで、正しい使い方を身に付けさせる。
輝く未来	家庭・地域との連携を深めて、将来の確かな夢をもち、夢を語るような人格形成を図る。	家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行い、意見を求める。	学校・学年だよりの発行とホームページの更新を毎月行う。	4「毎月発行・更新し、地域からの意見を募った」 3「学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った」 2「学校・学年だよりは毎月1回以上発行した」 1「学校だよりは毎月1回以上発行した」	3	4「学校の教育活動に安心している保護者が90%以上」 3「学校の教育活動に安心している保護者が80%以上」 2「学校の教育活動に安心している保護者が60%以上」 1「学校の教育活動に安心している保護者が60%未満」	3	* 情報発信は定期的であった。 * コロナ禍だから学校の様子を知ってもらう必要がある。 * 感染症情報などを発信し安心してもらえた。	行事の動画配信は良かった。保護者が安心できている状況が素晴らしい。今後も多くの情報を発信してほしい。	B	毎月の学校だより、学年だよりと適時の学校だよりは今後も続けていく。情報収集については工夫していく。
		キャリア教育によって夢をもち、実現に向け努力する生徒を育成する。	総合的な学習の時間及び進路学習を通して、将来について具体的に考えさせる。	4「よりよく生きたの進路学習を計画的に行った」 3「職業学習の充実で働くことの意義を考えさせた」 2「職業選択につながる進路指導を行った」 1「社会で自立するための職業観をもたせた」	3	4「夢に向けてキャリアプランを作った生徒が50%以上」 3「将来の夢を真剣に考える生徒が70%以上」 2「将来の夢に向けて進路学習を行った」 1「将来の夢に向けて進学先を考えた」	3	* タブレットの活用で、簡単に幅広く調べることができた。 * 職業調べでは、将来のことを真剣に考える生徒が多かった。	タブレットは知識欲を高めるきっかけになっていた。併せて書物による学習にも多くの発見がある。	B	将来の夢を見つけるために、様々な情報を様々な方法で提供する。教員個々の体験や知識も貴重である。
		9年間を見通した計画的な指導を行い、地域との関わりを深めていく。	福島中グループの小中一貫教育スタンダードを徹底する。	4「スタンダードを周知・徹底し、小学校との実践を深めた」 3「スタンダードを全クラスで指導・徹底した」 2「スタンダードの意義を理解させ、家庭協力を求めた」 1「スタンダードを意義を生徒に理解させた」	2	4「スタンダードを地域が協力・推進した」 3「スタンダードを生徒・家庭が実践した」 2「スタンダードを生徒・家庭が理解した」 1「スタンダードが家庭に周知された」	2	* 小学校から継続的に照り組んでいることで効果が出ている。 * 小中の接続を、保護者・地域にどのように意識してもらうかは課題が低くなる。	中学生になる期待と心身の成長が地域と共に育まれるようすを発信してほしい。	C	小中一貫教育の理解が、家庭や地域に浸透していない。情報発信や協力依頼の検討が必要。